第16回 縄文楽検定 初級 解答集

令和6年4月作成

テキストから88%の出題でした。テキストの略称は以下のとおりです。

テキストⅠ：縄文楽検定テキスト『縄文文化と火焰土器』（信濃川火焰街道連携協議会、平成21年3月刊行）

テキストⅡ：縄文楽検定テキストⅡ『信濃川火焰街道 縄文の旅』（信濃川火焰街道連携協議会、平成23年12月刊行）

『あ、これ知ってる！』：新潟県立歴史博物館編『あ、これ知ってる！はにわ どぐう かえんどのきの昭和平成』（新潟日報事業社、令和元年8月刊行）。

日本遺産ガイドブック：『日本遺産「なんだ、コレは！」信濃川流域の火焰型土器と雪国の文化』ガイドブック

（信濃川火焰街道連携協議会、令和3年度改訂版 ※平成28年度版とは頁数が異なるので注意）

『信濃川火焰街道連携協議会ガイドブック Vol.6』

No.	解	問題の出典と解説
1	c	テキストⅠ p2
2	d	テキストⅠ p5 aは長岡市馬高遺跡出土の火焰型土器（A式2号）、bは十日町市幅上遺跡出土の深鉢形土器、cは長岡市馬高遺跡出土の王冠型土器です。aとdの一番の違いは鶏冠状突起で、aは尾部が左上り、dは右上がりです。
3	c	テキストⅠ p5
4	b	テキストⅠ p5、p9など
5	b	テキストⅠ p25～26 津南町道尻手遺跡例は高さ60.7cmで国内最大の火焰型土器です。最大の火焰型土器は高さ61.0cmのアメリカ・クリーブランド美術館所蔵資料とされますが、新潟県立歴史博物館の宮尾亨専門研究員の調査によれば、底部を別個体で補っており、本来の個体より5～7cmほど大きく復元されている可能性があるそうです。（参考：新潟県立歴史博物館研究紀要第20号、2019）
6	c	『あ、これ知ってる！』p21～25、日本遺産ガイドブックp17など
7	d	テキストⅠ p1
8	c	テキストⅠ p19など
9	b	テキスト外（参考：『火焰土器の国 新潟』p58）
10	b	テキストⅠ p15
11	b	テキストⅠ p11 aは十日町市幅上遺跡の深鉢形土器、cは長岡市馬高遺跡出土の火焰型土器、dは長岡市山下遺跡の深鉢形土器、です。
12	c	テキストⅡ p2 この土器は、胴部が縄文で施文されている点が特徴です。一般的な火焰型土器・王冠型土器は縄文で施文されません。
13	b	テキストⅠ p17 今のところ縄文土器には回転クロロが使用されていないと考えられています。トチノミ殻の痕跡をもつ縄文土器も発見されていません。縄文土器の底には、木の葉や笹の葉、編み物の痕跡が残されていることがあり、これらを敷いて、手で回しながら土器を作っていたと考えられています。
14	a	テキスト外
15	b	テキストⅡ p3,8,12,18、日本遺産ガイドブック巻末「構成文化財一覧」
16	c	テキストⅡ p23、日本遺産ガイドブックp30
17	a	テキストⅠ p9～10 鶏のトサカに似ていることから鶏冠状突起あるいは鶏頭冠突起と呼んでいます。
18	c	テキストⅠ p16 火焰型土器の色調には赤色系と白色系があります。土器の胎土に鉄分が多く含まれるものは赤く、少ないものは白く焼き上がります。
19	b	日本遺産ガイドブックp2 暖流の対馬海流の流入によって日本海の海水温度が上昇し、ここに大陸からの季節風が吹きこむことによって、この地域が豪雪地帯になったと考えられています。

20	b	日本遺産ガイドブックp3
21	c	日本遺産ガイドブックp8,14,15,25、テキストⅡ p13,p20 a 新潟市の市場遺跡は古代の遺跡です。b 長岡市馬高遺跡、d十日町市笹山遺跡は縄文時代中期の遺跡です。馬高遺跡の「火焰土器」は、平成2年に国重要文化財となり、平成14年にはその他の主要な土器・石器等を合わせた300点が重要文化財の追加指定を受けています。火焰型・王冠型土器群をはじめとする笹山遺跡出土品928点は、平成11年に国宝に指定されています。
22	d	日本遺産ガイドブックp20 典型的な火焰型土器の分布は、ほぼ新潟県内に限られます(テキストⅠ p12～13参照)。新潟県が「火焰土器のクニ」と呼ばれるゆえんです。
23	d	テキスト外 現在のところ、縄文時代の遺跡から骨が出土しているのは、このうちイヌだけです。古くは縄文時代早期のまでさかのぼります。aネコとbニワトリは弥生時代の遺跡から、cウマは古墳時代の遺跡から出土しています。
24	b	テキストⅠ p22
25	c	テキストⅡ p8、『あ、これ知ってる!』p104～105など
26	a	テキスト外 まが玉は、適当な大きさに割った石を仕上げに磨いて作ります。
27	d	テキストⅠ p22～24 aは三角形土製品、bは三角罎(とう)土製品、cは石錘です。
28	b	テキストⅠ p3
29	b	テキストⅡ p27 魚野川流域では土偶の出土が少なく、地域の特徴となっています。
30	c	テキストⅠ p23 三角形土製品は縄文時代中期中ごろに作られた道具で、土偶の省略形とする考えが主流です。新潟県の縄文中期を代表する遺物で、これ以降の時代では作られていません。他の3つは弥生時代になっても作られています。
31	d	『あ、これ知ってる!』p5～p167 縄文土器は、粘土をよく練り、ひも状にし、輪づみしながら、土器の形を作ります。「せんいをよる」、「木の皮をはぐ」、「木の根をすりつぶす」とは明らかに別の動作をしていることが分かります。
32	d	テキストⅠ p4 住居が広場を取り囲むように配置されることから、環状集落と呼ばれます。集落の一方が途切れるものもありますが、これはC字状でなく、馬蹄形集落と呼ばれます。b環濠集落・c高地性集落はともに弥生時代の集落形態で、bは集落のまわりに濠をめぐらせたもの、cは丘陵や山頂に作られた集落です。新潟市の国史跡・古津八幡山遺跡は、弥生時代後期の大規模な高地性環濠集落です(日本遺産ガイドブックp8)
33	b	テキストⅠ p4 火焰型土器が作られた時代の集落は、見晴らしの良い高台(台地)に作られます。今のところ、a低地、c山頂、d海辺では発見例がありません。縄文時代後期になると、低地にも集落が作られるようになります。
34	c	テキストⅡ p25など(参考:『火焰土器の国 新潟』p106～107)
35	b	テキスト外
36	d	『あ、コレ知ってる!』p140 「おこげ」の分析から、シカやイノシシ、クリ・トチなどの堅果類、サケ・マスを土器で調理していたと考えられるデータが得られています(参考:火焰土器の国p89～98)。火焰型土器の時代に米を食べていたという証拠はまだ見つかっていません。
37	a	日本遺産ガイドブックp7
38	b	日本遺産ガイドブックp5,6,巻末「構成文化財一覧」
39	b	テキスト外
40	a	『あ、コレ知ってる!』p30～37
41	b	テキストⅡ p8

		八十里越は、三条市から魚沼市を經由して会津(只見町)に至る道です。aは長岡市、cは加茂市、dは見附市の遺跡です。
42	d	日本遺産ガイドブックp2 突起、特に口縁部に突起が付くのは縄文土器の大きな特徴で、他の焼き物とは区別されます。
43	c	テキスト I p38
44	c	日本遺産ガイドブックp32
45	c	日本遺産ガイドブックp15
46	b	日本遺産ガイドブックp28
47	d	日本遺産ガイドブックp21,22,24,巻末「構成文化財一覧」
48	c	日本遺産ガイドブックp13,25～26,巻末「構成文化財一覧」
49	c	日本遺産ガイドブックp1
50	b	日本遺産ガイドブックp35,36 aは長岡市馬高縄文館の入口にある、馬高遺跡出土の「火焰土器」のモニュメント。cは新潟市陸上競技場の炬火台です。dは新潟県立歴史博物館の駐車場近くにある、馬高遺跡出土の王冠型土器のモニュメントです。 協議会では、令和6年度も縄文の旅スタンプラリーを開催予定です。ぜひご参加ください(詳しくはHP「日本遺産 火焰型土器」をチェック！)。